

2026 令和8年 くもん子ども浮世絵カレンダー

四季の装い、文様に込めた願い

江戸・明治期の風俗をていねいに描いた浮世絵には、庶民の憧れや夢が込められています。
子どもや大人の四季の装い、文様に込められた意味や願いにふれていただけたら幸いです。



くもん子ども浮世絵ミュージアム
<https://www.kumon-ukiyoe.jp>

えどすなごねんちゅうぎょうじ がんたんのす
江戸砂子年中行事 元旦之図

楊洲周延 画
明治18年(1885)

令和8年
2026年

1

睦月
January

日	月	火	水	木	金	土
				1 元旦	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



麻の葉と雪輪



ねじり梅



麻の葉

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

宝尽くしの羽子板を手に、につこりとほほ笑む少女。麻の葉と雪輪文様の着物に、初春らしい「ねじり梅」の文様をちらした襟をあわせた季節感のある装いである。本図は、楊洲周延（一八三八～一九二二）の人気シリーズの一枚で、江戸後期の正月の風俗を懐古的に描いている。



時代かがみ ぶんせいのかき 文政之頃 節季ぞろ

楊洲周延 画
明治二十九年（一八九六）

令和8年
2026年

2

如月
February

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 建国記念の日	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28

二月の「初午」にちなむ狐のお面をかぶった男児に、大げさに驚いて見せる母。若いお母さんに似合う緋の着物と蝶文様の帯、やんちゃな子どもにびつたりユニークな帯を配した衣装が目を引く。明治から昭和にかけて活躍した、山本昇雲（一八七〇―一九六五）の代表的なシリーズの一枚。



いますぐた おおこわ
今すがた ヲ、こわ

山本昇雲 画
明治三十九年（一九〇六）



蝶



燕



令和8年
2026年

3

弥生
March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



蝶



麻の葉



柏

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

個性的な美人画で一世を風靡した溪斎英泉（一七九一〜一八四八）は、子どもの絵も得意であった。本図は、四季の子どもの遊戯に取材している。上巳の節句（雛祭り）に目隠し鬼遊びをする少女らの衣装には、健やかな成長を願う麻の葉や蝶、子孫繁栄を願う柏の文様が配されている。



四季の詠おさな遊 三月上巳花見

溪斎英泉 画
文政（一八一八〜三〇）頃

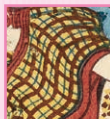
しきのながめおさなあそび さんがつじょうし はなみ

令和8年
2026年

4

卯月
April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29 昭和の日	30		



童子格子



七宝



蔓花菱

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo-e.jp>

歌人・藤原定家の和歌「しら雲の八重たつみねの山桜 空にもつづく瀧津川浪」にちなみ、コマ絵に山桜と滝を眺める定家を描く。女性の帯は七宝や蔓花菱などの文様で、薄藍を基調とした縮柄の小袖は「瀧津川浪」を連想させる。空にも届けとばかりに高く掲げられた子の、楽しい声の間聞こえるようだ。



五色和哥定家卿白

ごしきわかつていかきよう しろ

歌川芳虎画

弘化四・嘉永元年（一八四七〜四八）

令和8年
2026年

5

皐月
May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30



三升紋



束ね熨斗

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyoe.jp>

今日は端午の節句、鍾馗や家紋を配したのぼりを飾り、来訪者を迎える一家を描く。男児の衣装には市川團十郎ゆかりの三升紋、姉が持つ重箱にはおめでたい熨斗模様が。美人画の名手として名高い喜多川歌麿（一七五三？～一八〇六）は、このような家庭の平安に取材した秀品も多く残した。



端午の節供

たんごのせつく

喜多川歌麿 画
享和（一八〇一～〇四）頃

令和8年
2026年

6

水無月
June

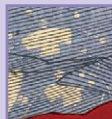
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



弁慶格子



松皮菱



やじろべえ

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyoe.jp>

明治中期の庶民が憧れる都市部の暮らしを描いた、周延の傑作シリーズで、「福」にちなむ副題を付す。青紅葉の衣装を着た女性が、着物に霧を「ふく」様子を描く。可愛いやじろべえ柄の衣装は、画中の男児か女兒のものだろう。庭に咲く紫陽花が、季節感を添えている。



東風俗福つくし霧ふく

あずまふうぞくふくつくし きりふく

楊洲周延 画
明治三十二年（一八九九）

令和8年
2026年

7

文月
July

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



雪輪と桜



波と蛸

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

雪輪に波と蛸を配した涼しげな衣装を着て、蟬取りに熱中する男の子を描く。傍らの女性も雪輪模様に桜をあしらった、花の名所の「吉野」の文字を散らした古典的なイメージの着衣である。「源氏物語」の空蟬の帖になぞらえ、柳下亭種員の句「はつせみや 樹(こ)のもとに衣(きぬ) ぬぎ捨(すて)て」を配する。



准源氏教訓図会 空蟬

なぞらえげんじきょうくんずえ うつせみ

歌川国芳画
弘化一二年(一八四四、四五)

令和8年
2026年

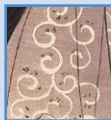
8

葉月
August

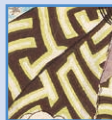
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 山の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29



千鳥



唐草



幾何学模様
(沙綾形風)

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

大きなリボンに垂髪姿、百合園を散策する明治後期のおしゃれな少女を描く。紗綾（さや）形風の幾何学模様のモダンな着物に対して、半襟やりボンには千鳥や唐草といった古典的な模様をあしらうなど、総じて上品な印象だ。年頃の女性の憧れが詰まった美人画は、装いの良い手本になっただろう。



いますぐた ゆりえん
いま姿 ゆり園

山本昇雲 画
明治三十九年（一九〇六）

令和8年
2026年

9

長月
September

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
27	28	29	30			



落雁



網干



菊の葉

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

ぜいたくな染の振袖を着た娘と、袖にじゃれる猫を描く。九月九日、長寿を願う重陽の節句は菊の節句とも言い、衣装にも菊の葉の模様が見える。干した漁の網を表現した「網干」や雁を配した華やかな衣裳に、猫も興味を持ったのだろうか。猫好きの国芳らしい楽しい取りあわせである。



五節句 長月

ごせつく ながつき

歌川国芳 画
弘化一〜三年（一八四四〜四六）

令和8年
2026年

10

神無月
October

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



桐



菊



麻の葉

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

三代歌川豊国（一七六〇―一八六四）と歌川広重（一七九七―一八五八）の合筆で、上部の六郷川の景は広重の担当。豊国が描く女性は大膽な桐と菊模様の絞りの衣装に、頭に手ぬぐい、肩に褌をかけ、麦わら細工作りにいそしんでいる。お手伝いをする男児を見る、優しいまなざしが素敵である。



双筆五十三次川崎

そうひつごじゅうさんつぎかわさき

三代歌川豊国・歌川広重画
安政元年（一八五〇）

令和8年
2026年

11

霜月
November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30					



れんこん



梅花水裂



三升紋

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo-e.jp>

四季折々の子ども遊びに取材した揃物で、十一月の歌舞伎の顔見世狂言をまねる様子を描く。右の少年は軽く口紅を付け、女形を演じている様子、梅花水裂文様の洒落た小紋を着ている。左の少年は市川團十郎が用いた三升紋をまとっている。はつらつとした様子で、元気な台詞が聞こえてくるようだ。



こだからあそび
しばい
子宝遊
芝居

歌川国貞(三代歌川豊国)画
天保二(八三〇)四四頃

令和8年
2026年

12

師走
December

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



雪に笹



雪華

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp>

吹雪きの中を歩む女性、小袖にちりばめた雪華模様も、冬の冷えた空気を連想させる。古河藩土井家の当主利位が天保三年（一八三二）に、雪の結晶図鑑『雪華図説』を刊行すると、雪華文様は大流行した。周延の「東風俗福つくし」シリーズの中でも、衣装の美しさが際立つ一図である。



東風俗福つくし ふうく

楊洲周延画
明治三十二年（一八九九）